



議会だより

ここのえ

発行／九重町議会
 編集／議会広報特別委員会
 平成29年7月17日
 〒879-4895 大分県玖珠郡九重町大字後野止8番地の1
 ☎0973-76-3814 ☎FAX 0973-76-3809
 メールアドレス(議会事務局) gikai@town.kokonoelg.jp

献上米

誇りと育て

早乙女も

No.118 2017.7.17発行

6月定例会

- 平成29年第2回定例会 P.2
 - 委員会報告・研修報告 P.4
 - お出かけ議会報告 P.6
 - 一般質問 6名 P.9
 - わたしのひとこと P.15
- 野上・滝上 佐藤 智之^{さん}
 飯田・日向 音成 葉子^{さん}

平成29年第2回定例会

本定例会は6月7日から6月22日までの16日間開催されました。
専決処分4件を含む報告3件、議案9件、発議1件、陳情2件を
慎重に審議しました。

平成29年度一般会計補正予算(第1号)

当初予算額	71億37,000千円	
補正額	76,316千円	増額
補正後の額	72億13,316千円	

◆ 補正予算主要内容 ◆

歳入

- 国庫支出金（地方創生推進交付金）…………… 11,830千円
- 基金繰入金 …………… 49,000千円

歳出

- 農地費 工事請負費 …………… 11,400千円
水路等の改修を行うもの
- 農業振興費 備品購入費 …………… 18,500千円
バークマット製造機等
- 社会教育施設管理費 工事請負費 …………… 19,000千円
野上ふれあい交流施設地盤改良工事等



今年度大規模改修が行われる東飯田小学校特別教室棟

補正予算質疑

増田裕子議員

Q 美山高校のパークマット実証研究や製造機購入等、玖珠町との広域で地方創生推進交付金を得たが、実行段階でも連携するのか。

A パークマットは九重町が、志学塾は玖珠町が各々行う。来年度も、協議していきたい。

佐藤明郎議員

Q 地区公民館建設に伴う、追加分担金が出すことが、不可能な行政区も今後は考えられる。その時の対応をどうするの。

A 厳しい課題であり、事業中止も考えられるが、今後においては、当初の計画で実施できるように努める。



人事案件 1件

教育委員の任命に同意



小幡 弘さん
川上一

前教育委員の井上東介氏が退任したことから、同じく東飯田地区の小幡弘氏を教育委員として任命することについて、満場一致で同意しました。

なお任期は、前任者の残任期間である平成30年10月7日までです。

条例の一部改正

関連する法律、政令、施行令の改正のため

国民健康保険税条例

減額する基準所得額を緩和

現行：33万円（山林含めた総所得）+26.5万円

改正後：33万円+27万円

現行：33万円（山林含めた総所得）+48.0万円

改正後：33万円+49万円

町税条例等

控除対象配偶者を同一生計配偶者に改める等の変更

町税特別措置条例

情報通信技術利用事業を農林水産物等販売業に改める

工事請負契約の締結

≫ 統合簡易水道災害復旧工事 浄水施設
総額195,395,400円
水道機工(株)と新成建設(株)と契約

≫ 東飯田小学校大規模改造工事
総額151,794,000円
新成建設(株)と契約

財産取得

≫ 学校給食センター厨房機器一式
総額15,444,000円
タニコー(株)より取得

過疎地域自立促進計画の追加

≫ パークマット製造設備整備計画事業
≫ 田尻集会所整備事業

審査報告

議案
1件

道路認定について

今回新規認定しようとする「北方支線」は、町道北方線より分岐した255mの区間で、本線は北方下地区の生活道路として重要な路線であり、地元の申し出を尊重し新規に認定しました。

建築工事に係る競争入札の価格変更

2017年6月1日改正

改正後	改正前	A級	等
設計金額 4,000万円以上	設計金額 3,000万円以上		
設計金額 3,000万円以上 6,000万円未満	設計金額 2,000万円以上 5,000万円未満	B級	
設計金額 500万円以上 4,000万円未満	設計金額 500万円以上 3,000万円未満	C級	
設計金額 3,000万円未満	設計金額 2,000万円未満	D級	



新築された北区集会所



認定された町道北方支線

審査報告

議案
1件

陳情
2件

可決された案件

各種集会所の設置及び管理に関する条例の一部改正について

3月に新築された北区集会所を本条例の対象施設として加えるものです。



教育予算は「未来への先行投資」

みなさんからの陳情は、こうなりました。

少人数学級の推進や複式解消など定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元と制度の拡充を求める陳情について

大分県では独自の財源で、小学1・2年と中学1年は30人以下、小学1年と中学は複式にしない取り組みをしています。教育の機会均等は憲法の保障するところでもあり、国の施策として教育環境を改善するように、議会から国へ意見書を提出することとしました。

温泉館「見晴らしの湯」
存続、維持に関する
陳情について

440名の署名と共に、今



4月から休館中の「見晴らしの湯」

年4月に休館となっている温泉館「見晴らしの湯」の運営再開を求めるものです。
町民をはじめ町外の多様な人々の利用があり、生活に必要なかつ癒しの場ともなっている等の理由や趣旨は理解できませんが、建物の老朽化など多くの問題を詳細に調査し、町民に望まれる施設の可能性を検討するためには、関係機関とも協議しながら慎重な審議が必要と判断し、「継続審査」の申し出を行いました。

行政視察研修報告

総務建設産業常任委員会 …… 北海道 5月10日～12日

豊浦町

10日
人口) 4,291人

豊浦町 視察事項

- 1) 生薬の里づくりについて
 - ・トリカブトの生産をしていたが中国からの輸入拡大で生産が難しくなった。
 - 2) バイオガспラントについて
 - ・カキの残渣の処理方法の1つとして検討対象となった。
 - ・酪農家、畜産農家の糞尿処理もできる。
 - ・エネルギーの地産地消に向け再生エネルギーの促進になる。
- ※事業費24億円(70%補助金)残りは過疎債を使用。

ニセコ町

11日
人口) 5,391人

ニセコ町 視察事項

- 1) 道の駅の設置目的、役割について
 - ・地域の振興をはかり、観光振興の観点から平成9年に設置した。

小樽市

12日
人口) 120,037人

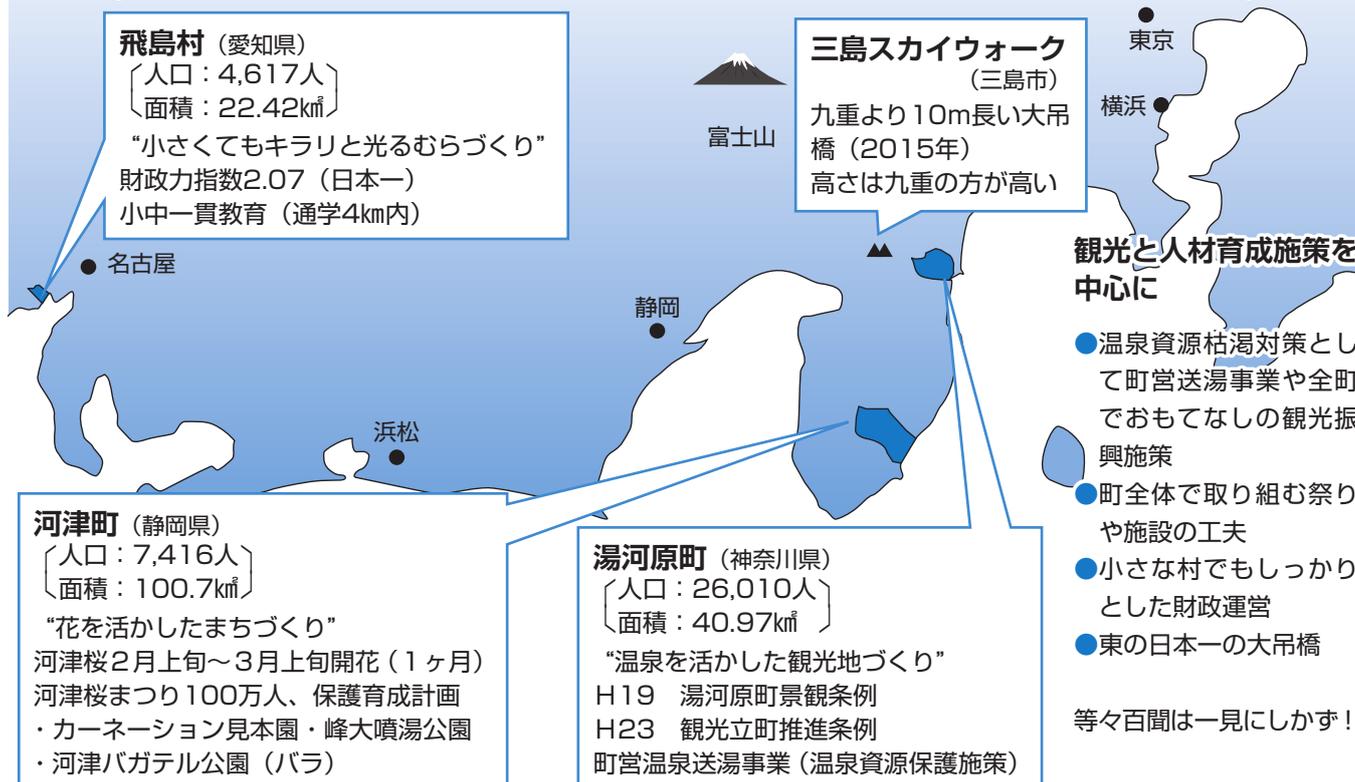
- ・2016年道の駅ランキングでいってよかった「道の駅」で全国3位に選ばれた。
- ・高い評価は施設というより、野菜の直販、地元食材を使った軽食、観光案内等の質に対するもの。
- ・問題点は、休憩所スペースがないこと、駐車場(車100台、大型10台)のスペースが不足していること、施設の老朽化等。今後駐車場の拡大、トイレの増設、新設についても検討。
- ・住民とともに作って行くことが大切である。何10回も話し合い、参画することから始め、納得しないが理解はできるというまで、話し合うことが重要である。

視察研修で感じた事

- ・九重町は資源が豊富、人材がある、地の利があるが生かしていないと感じました。地産地消、観光振興等を中心に考えた「道の駅」が有用であると再認識しました。「駅」を中心に町民がアイデアをだし、やる気をだし、夢を語れる場所になると思えます。

教育民生観光常任委員会 …… 神奈川県・静岡県・愛知県 5月15日～17日

大分 → 東京 → 湯河原町 → 河津町 → 三島スカイウォーク → 飛島村 → 大分



4地区で「お出かけ議会」を開催

「必要に応じ議会で検討します」
皆さんからの意見を紹介します

議会の様子

Q 4月は行事が多く、お出かけ議会は別の時期に。
A 3月議会後で農繁期前とした。時期は検討する。

Q お出かけ議会では、町民が興味ある重要な事業、町出資会社、交通体系等、テーマを決めてはどうか。
A 検討する。

Q 議員定数・報酬・女性枠・若手議員等の議論は。
A 定数と報酬は、議長が総務建設産業委員会に諮問し議論中である。

Q 議員提案の議案はあるか。一般質問の状況は。
A 議員提案の議案は現状ではないが、状況に応じて対応する。一般質問は議員が個々に行い、過去の質問への進捗状況も確認する。

Q 養豚場反対陳情を不採択とした理由は。建設反対者の現状は。
A 養豚場反対陳情を不採択とした理由は。建設反対者の現状は。

A 陳情時の理由が現状では解消されているため。今後も多面的な議論を継続する。企業は、無排水等に計画変更したが、反対者の理解は得られていない。

公共の状況

Q 飯田や南山田に町営住宅はできないか。
A 町のマスタープランによって取り組む。効果的で計画的な住宅建設を申入れている。

Q 箱モノは、人口減少の折、見直す時期である。
A 公民館は、地域住民の交流の場と放課後児童クラブ等で活用。箱モノは見直していく。

Q 温泉館存続の陳情書の分析や町民の利用率は。新設と改修の財源は。
A 400名程度の署名。分析はしていない。年間利用者は約2万人。指定管理者の受け手が無い。財源については、現在調査中。

Q 温泉館は、観光・体育合宿・災害時の入浴等考慮し存続を。
A 町民利用者と福祉の関係もあり、本年度は休館。今後の方向は執行部と協議する。

Q 東飯田中学校や東飯田公民館の跡地の用途は。
A 中学校は交流センターに、公民館は更地にするが用途は未定。

Q 野上と南山田交流センター事業費の金額の差は。
A 人口割である。

Q 十三曲りの下の工事は道の拡幅か。
A 道路のみの改修。国有地・民有地は国・県が対処する予定。

Q 町に依頼した交差点ミラーの改修が未実施。
A 担当課に伝える。

Q コミバスの色を分かりやすく、運行ルート・時刻、停車場所、オンデマンド交通採用、免許自主返納者対応等、交通弱者に十分な配慮を。運行開始後も住民の意見を取り入れてほしい。
A 要望のことも含めて、地域公共交通会議で決定する、今年度中から段階的に実施する予定。利用状況は継続的に調査し、見直す。



お子さん連れのお母さんの参加も

公共交通の状況

Q コミバスの色を分かりやすく、運行ルート・時刻、停車場所、オンデマンド交通採用、免許自主返納者対応等、交通弱者に十分な配慮を。運行開始後も住民の意見を取り入れてほしい。
A 要望のことも含めて、地域公共交通会議で決定する、今年度中から段階的に実施する予定。利用状況は継続的に調査し、見直す。

観光のこと

Q 観光客に平日や1日観光コース、雨天時のポイント等をパンフにして案内所等に配布しては。ケーブルTVの九重町観光案内は町外に放映することが有効。

A 要望のパンフ作成を、担当課と観光協会で検討する。大分ケーブルテレコムは県内のみである。

Q 放牧牛感染を回避する

オルレコースの設定を。区長会質問にも出したが、議会も考えてほしい。

A 検討する。

農業のこと

Q 農協と共同で新規就農者の栽培等の研修を2年間行いプロに育てる自治体がある。育成助成も多く、遊休農地解消にもなる。

A 九重町もファーマーズスクールはあり、町・県の補助はある。参考になる取り組みだと思う。

産業のこと

Q 食える農業へは、加工・販売ルートや投資のハードルが高すぎる。農業での土地活用は自然環境保護の役割が大きく、もっと補助を。

A 理解できるが、難しい課題である。

Q 産業振興では、

地域資源で稼ぐ力が欠如、若者が疲弊等課題山積である。今後の活力を生み出すには。

A 地域資源を活用して農業・観光振興に取り組む。

Q 復興割引券を一部の人が買い占めた。商工会にしか情報がない。

A 広報このえで復興割引券について掲載した。

Q 町出資会社は方向が見えない。メリットや課題を議会で議論し住民に分かりやすく返してほしい。

A 議会としても議論し対応したい。

生活や地区のこと

Q 松木ダムの発電状況は。

A 九州電力の買取り制限があり、追加工事が発生したが、本年末に電気の売買ができる。

Q 自然が豊かで子育てに最適。こどもが住み続けること

ができる町に。

A 地方創生の取り組みで活力のあるまちづくりをしていきたい。

Q 空き家対策に補助金はあるか。

A 所有者が賃貸のために改修する時、3分の2以内で上限100万円の補助。入居者が改修や増築を行う時は限度額が200万円。空き家に付随した農地は、1a以上で売買が可能。

Q 高齢化や人口減少に伴い、行政区の統合が必要になる。統合を容易にする町の提案も欲しい。

A 該当する区長や区長会が役場と話し合うことが重要である。

Q 玖珠美山高校の生徒数や九重町生徒数は。町の支援金400万円の使途は。

A 生徒数は調査していない。支援金使途は学校の裁量であるが、支援会議で議会も関わっている。

災害のこと

Q 災害時に農業関連では役場のどこに相談するか。

A まずは農林課に。

Q 重大災害では調査票を住民全員に配布して状況を把握すべき。昨年、菅原は全戸実施した。

A 検討する。

財政のこと

Q 経常収支比率、公債費率、固定資産税収納状況、納税組合加入状況は。

A 85%、4%、1月末で約90%。納税組合がない地区はある。

Q 今年度予算は昨年度より4億6千万円の減額。理由は。

A こども園・奥野住宅の建設終了、公共施設の減少が主な理由。



多くの参加者で部屋がいっぱいに

玖珠郡合同防災訓練

6月9日 玖珠河原 議員も参加



防災ヘリに乗り込む町長

大雨の季節を前に、県警、自衛隊、消防署をはじめ、地元自治体、消防団、地域防災組織まで、郡内のあらゆる団体が参加して、玖珠郡合同防災訓練が、玖珠河原において、実施されました。

実際の被災現場を再現しての、防災、救助訓練は、緊張感も高く、各団体の訓練は、見事なものでした。訓練を見て、特に感じたのは、各団体の指揮命令系統、人命を救うためまずは



被災者を搬出する自衛隊員

自分達の行動にミスを起こさない準備、訓練の徹底、この姿には、頼もしさを感じさせられました。九重町消防団のみならずも訓練おつかれ様でした。

昨年12月、部落差別と明記した、はじめての法律、「部落差別の解消の推進に関する法律」が制定されました。

れば、意味はありません。九重町も、この問題は、行政の責任、全町民的課題と位置づけています。

法の施行に伴い、全議員で課題や問題を学習しました。

▼この法律の特徴

国が、許されない部落差別が今も残っている事を明記したこと。

今までの対策法は、地区に対する法であったが、今回の解消法は、国民に対するものである。各自治体の責任を求めている。などがあげられます。

しかし、この法律ができたからといって、各自治体は何もしない



議員全員の人権学習会

「部落差別の解消の推進に関する法律」

議員全員で学習会

町政を質す 一般質問

6名の議員が質問

佐藤 太治



「道の駅」を拠点とした町づくりは考えられないか

…… 既存の商業施設の現状を把握すると今すぐ検討はできない

●道の駅について

佐藤 道の駅を拠点とした、九重町の町づくり、地域振興、地産地消、観光振興等、町の玄関としての位置づけは考えられないか。全国1千以上の道の駅があり、今も増えている。地方創生の柱としての役割も果たしている。また、資金も国庫補助金、過疎債、特防交付金等考えれば多くの自己資金はなくても地域起こしができる、こんないい事業になぜ取り組まないのか。



北海道ニセコ町の道の駅

町長 検討はするが、今すぐ取り組むというものではない。道の駅だけが成功しているというケースがあるというところがある。今あるふさと館、飯田のドライブイン、そして今度オープンする宝泉寺の物産館等の中身を見て検討していく。



みつばこども園、待機児童はいない

教諭が確保できる見込みがあるので、出ないと考えている。

●老人会の現状は

佐藤 各地区の老人会は増加しているか、減少しているか。

町長 全国的に減少している。また、九重町も会員数が半減している。社会福祉協議会が助言等行いながら支援している現状である。

佐藤 第4次総合計画のなかで「自助」「共助」「公助」という言葉が出てくるが、一つの目標に対して「自助」「共助」「公助」で同時に取り組み、その中ですみ分けしていくという理解で良いか。

町長 「自助」は自分でできることは、自分でやり、「共助」は地域でできることは、協力してやり、その後に「公助」が来ると思っている。「公助」は町が側面から支援することであり、しっかりと横並びではないと思っている。

●みつばこども園の現状は

佐藤 現在待機児童はいるか。

町長 今年度は出ていない。今年度、来年度も保育

町の基地としての道の駅づくり 大きく夢と目標をかかげては

…… まず一つ一つの中身をしっかりとやっていく



増田 裕子

● ふれあい交流センターの 持続可能な維持・管理と これからの発展を

業については10年後60%が現在より困難になると回答。インフラの管理、空き家、生活用品の確保等の問題など、

8年前の調査と内容を比較しながら検討していく。地区担当の導入については、平成23年度に1年半実施して今は中断している。

増田 「九重夢」ブランド創造協議会」が立ち上がった1年経つが、どんな検討・議論がされているか。結論はいつ頃出す予定か。

増田 各地区の協議会を画一的に考えるのではなく、各特性を活かして自主運営の幅をひろげてはどうか。



落成した南山田ふれあい交流センター

増田 協議会および分科会を数回開催してきた。必要とされる九重町の統一したイメージが固まってきている。各分科会において協議を進めていく予定。今の時点でいつ結論をとはいないが、早急に報告する。

増田 「九重夢」ブランド創造協議会」が立ち上がった1年経つが、どんな検討・議論がされているか。結論はいつ頃出す予定か。

増田 協議会および分科会を数回開催してきた。必要とされる九重町の統一したイメージが固まってきている。各分科会において協議を進めていく予定。今の時点でいつ結論をとはいないが、早急に報告する。

町長 昨年11月から12月にかけて区長アンケートを行った。回答率は97行政区、71・8%。協働活動作

は。増田 行政区担当職員制の活用で、平成28年度実施した行政区実態調査の結果は。

町長 昨年11月から12月にかけて区長アンケートを行った。回答率は97行政区、71・8%。協働活動作

増田 協議会および分科会を数回開催してきた。必要とされる九重町の統一したイメージが固まってきている。各分科会において協議を進めていく予定。今の時点でいつ結論をとはいないが、早急に報告する。

増田 協議会および分科会を数回開催してきた。必要とされる九重町の統一したイメージが固まってきている。各分科会において協議を進めていく予定。今の時点でいつ結論をとはいないが、早急に報告する。

まちづくりと産業振興について 〈第四次総合計画中間報告の中から〉

「道の駅」が
活力を呼び、雇用を創出、
地域の好循環へ

地域の元気を創る
産業振興
地域福祉防災

地域外から活力を
インバウンド観光
観光総合窓口
移住定住促進

有吉
富生



町有地の有効活用をどう図るか

..... .. 協議を重ね効率の良い活用を検討していく

● 利用されていない町有地の活用計画は

有吉 数多くある町有地の管理も大変な中、再利用できる建物、未利用の土地等の有効活用を図るべきではないか。

町長 これまでも職員検討委員会で議論をしてきているが、今年度町有施設等の活用検討委員会を設置して、議論を進めていく。

有吉 有効活用するには町民の要望も聞くべきで、一例として地域で子どもを遊ばせる場所として幼稚園の跡地を児童公園にして子育て支援をしてほしい等があるが、地域要望の検討はできるか。

町長 住宅の建設に合わせて公園もできているが旧施設の整備もしなければならぬので、地域の方々の意見を聞きながら整備をしていく。



整備後の飯田幼稚園 児童公園の要望箇所

● 用途廃止住宅の空き地の活用計画は

有吉 町営住宅の内で将来計画で用途廃止となっている住宅地において、退去で住宅が壊されたまま、年数が経過しているが、町の計画を変更して分譲等の有効活用すべきではないか。

町長 用途廃止住宅については「全ての入居者が退去してから活用計画を考える」となっているが、いつになるかわからないことでもあるので、分譲の青写真を描いてみて、検討していきたい。

● コミバスの利用対策は

有吉 コミバスを運行するにあたって、バスが近付くまで確認できない。町内同一料金でいいのでは。バス停の見直し等の要望があるが、検討できないか。

町長 バス停については各地区交流センターを拠点とした見直しを検討する。コミバスの見わけについては今後の計画でラッピングする。わかりやすい措置を早急に行うが、全てを含めて内容の検討を行う。



ラッピングを待つコミバス

● 空き家の現状は

有吉 近年増えてきていると思われるが現状は。

町長 以前調査の時は260件の空き家だった。その後の調査はしていないが、かなり増えていると認識している。

● 危険家屋（特定空き家）の対処は

有吉 空き家は年数が経てば危険家屋となる心配がされる、全国的な問題の中で国において法整備がされたが町の対策は。

町長 国において平成26年に空き家等対策に関する特別措置法が施行されて、町には空き家対策に対する指針を定めるようになっていく。国の法に基づいて、適正な管理の指導、勧告等が行える体制をつくっていく。

第四次総合計画は後半に突入 行財政運営を始め施策の進捗は十分か

.....目標設定／PDCAや民間活用等は
強く推進し達成する



麻生 良典

● 行財政運営の 施策達成に拍車を

麻生 各事業の成果目標が未設定でPDCAも未確立。目標設定や検証が全くなされない状態で事業を実施したことは問題である。
町長 必須なことであり、未達成を反省し、強く推進する。対象を広げすぎたことが原因であり、適切な項目に絞り込んで実行する。
麻生 今年度中に一般質問で進捗を確認する。

PDCAとは
Plan-Do-Check-Actionの頭文字を並べた言葉
P(計画)→D(実行)→C(評価)→A(改善)
改善後は新たな計画(修正計画)で次のPDCAを行う。これにより、より良い計画のもと効果的で効率的な業務が可能となる。

PDCAとは

10課134名の職員を目標にしたが、現状は13課で152名。未達成の理由や新たな目標は。

町長 町の特徴を表す課名を残すこと、組織運営や職務の維持等から限界があった。人口が減少しても住民サービスの維持には一定の職員数は必要である。町出資会社を含め、役場外への委託も検討中。

麻生 町出資会社の課題である経営層は町内に限定せず、人材会社を活用し広く募集してはどうか。

町長 有用な提案であり、検討の対象としたい。

● こども園の課題を 解決する方法は 十分か

麻生 民間活用が基本方針となっている。こども園は学校法人か社会福祉法人のみ委託できる。計画は。

町長 町内には学校法人はなく、社会福祉法人として九重町社会福祉協議会がある。



こども園での意見交換

麻生 こども園は立地が異なり、担当課の管理運営には工夫を要す。現場課題の把握と解決の方法は。

町長 こども園とは月1回園長リーダー会議を開催し課題解決してきた。今年度も正規および臨時職員との意見交換を行っている。

● ケーブルTV番組は 住民の声で充実する

麻生 番組に魅力がない。観光案内は町外や県外で放映する等の意見があり、検討を要望する。新春かくし芸や講演会等は特番に、ドローンで見る町の姿、住民が作成したビデオを流し、デマンド交通の予約状況のお知らせ等もお願いしたい。

町長 県外は困難だが県内のCATVでは九重町の案内を流している。要望は危機管理課に提出すれば放送運営委員会で審議する。

● 経験が浅くても 興味を共有し 発表できる場

麻生 多様な方々の興味に応えるため、初心者レベルでも調査研究したことを交換発表できる場はないか。興味の持続は、地域文化の広がりや高場につながる。

教育長 新たな社会人学習の場は、公民館や地区協議会を活用し進めてもらいたい。

藤原
三治



「生物多様性戦略」 町の考えは

.....

各課連携して対応したい

● 「生物多様性戦略」 町の考えは

藤原 川の魚類が減少し、外来動植物の姿を多く目にするようになった。町は生物多様性戦略を作成したが、考えと対策は。

町長 国と県で戦略が策定され、町も住民の聞き取り調査を行い、問題、課題点を把握している。どこにもあつた自然を次の世代に引き継がれるのがこの戦略の課題と考える。

藤原 豊かな自然を求めているが各地で外来種の植物が花を咲かせている。町民運動として、町は各課、横のつながりを保ちリードしていくべきと考えるが。

町長 外来種が非常にやっかいな状況になっているのは承知している。完全に駆除するのは難しいが、やらねば前に進まないと考え、各課連携をとり対応したいと考えている。

藤原 川の魚が姿を消し、

一昨年の12月にカワウの被害対策について質問した。その結果は。

町長 実際に調査を進めており、捕獲したカワウの胃の中からウナギや川魚が出てきた。大変な課題であり対策を進めていくと報告を受けている。



松木川沿いにある石鹼工房

藤原 川の水質は大丈夫か。水質検査は行っているか。浄化槽を過信し化学洗剤や合成洗剤を流しすぎるのではないか。

町長 現在石鹼工房に委託し、合成洗剤の軽減化を進めている。手作りの石鹼、非合成洗剤の普及啓発を進

めている。水質検査を町で行ったことはないが、行うかどうかについては今後検討したい。

● 地元高校の 存続支援は

藤原 定員割れが続く玖珠美山高校、このままでは存続が危ぶまれる。玖珠町は高校生を対象に志学塾を立ち上げ134名内九重町から44名、約1/3の生徒が無料で受講している。玖珠に高校がなくなると生徒も保護者も時間も金銭も負担が大きくなる。玖珠に高校を残すための町の支援対策



公営玖珠志学塾

はどう考えているか。

町長 27年に統合し3年間、定員割れが続いている。このままではクラス減、分校化も考えられ危機感を覚えている。玖珠町は公営塾に取り組み、九重に負担割りの支援を求められたが町としては高校が開発し特許を取得した『パークマット』を地方創生事業の活用で支援することとした。今後は実証試験を重ねてより高度なものになるよう取り組んでいきたいと考えている。



実証試験のパークマットで育ったトマト

「町政課題」 町民議論を優先させるべき



佐藤 明郎

まずは執行部が考えを持ち
住民の考えを組み合わせる

● まず町民に選択肢を

佐藤 町長が主張する「町民主体の町づくり」とは何か。

町長 町づくりを町民みずからが考え、住民が主役にならなければならない。

佐藤 そうであれば、課題の方向性が定まる前段階で町民に選択肢があるべき。

町民同志の自由討論が優先、それから庁内計画へ、路線変更すべきと考えるが。

町長 まず執行部が考えを持ち、それから住民の考えを組み合わせ、時間がかか

ろうと、何回も対話会を重ねていきたい。

● 町民の一部の声

佐藤 一部の町民からは、決定に至る経緯に対し、不信感の声もある。

町の課題に対し、町民同志が自由な議論を重ね、それを参考にして、行政が計画を立てる、これが理想だと思うが。

町長 中身によっては、そのやり方も必要だと考える。

住民の意見を聞くという立場から、ひとつの方法だろうと、私も考えている。



町長と「まちづくり協議会」の対話会

部落差別解消推進法施行 町はどう捉えるのか



学習のため長崎での集会に参加しました

佐藤 ここで部落差別を明記した法律ができた意味は。

町長 一部で、「部落差別はなくなった」との認識もある中、現実には、結婚差別をはじめ多くの差別が残っていることを初めて国が示した。

町長 「寝た子を起すな」論では決して解決しない。しっかりと学習が必要だ。

● 町民意識調査

佐藤 いまの答弁のように学習の必要性を考えたとき、方向性を探るうえで、町民意識調査が不可欠ではないか。

佐藤 多くの方に「今さら話題にするな、そつとしておけ」といった考えがある。執行部は、どう考えるか。

町長 わが町の実情に合った調査は、必要だと考える。すぐには無理だが、関係課と連携して協議したい。

● 「寝た子を起すな」をどうとらえるか

あたしのひとこと

「変わらないという

安心感」

野上 滝上

佐藤 智之さん



「坂上地区」この地区名は町内ではほとんど知られていないだろう。

野矢小学校校区の野矢・小垣・榎原・小平谷・平家山・滝上・寺床・田代・拓郷の9つの小部落を総称したものだ。

ここが私のふるさとである。さて、皆さんは自分のふるさとの風景をどのように捉えていますか？

私が「ふるさとの風景」と聞いて真っ先に浮かぶのは、子どもの頃に体中で感じていた風景だ。毎日通った通学路、駆け回って遊んだ野山、泳いで釣りをした川、そして畑を探せば親がいた。ふと考える…これは良き思い

出の中の風景なのだ。

「ふるさと」という言葉に無意識に懐かしい安心感を求めているのだろうか。

現状はというと、農家は高齢化が進み後継者不足で耕作放棄地が増え、その風景への「安心感」は薄れているように感じる。

この先、各家庭だけでの維持は更に難しくなる中であって、仲間と共同で管理することで負担の分散、想いの共有を進めればふるさとの風景を守っていけるのではと考えるようになり、私も外に仕事を持つ会社員だが4年前から耕作放棄地を借り数人の仲間と共に米づくりをしている。

そうした中でいつかは地元を離れて行くであろう子ども達も、ふるさとに対して「変わらない」という安心感が持てるよう、これからもここで不器用に生きていこうと思う。

その思いが親から子へ子から孫へと継がれることを願います。



私の家族

手から手へ

飯田 日向

音成 葉子さん



「あんたんとこ、レタスいらんかえ？」

家の勝手口を開けると、ご近所さんがそう言っていていつものレタスを持って立っている。

「今年は梅がたくさんなっちゃるんよ、いるなら採りにおいで。うちはもういらん、誰かに使ってもらえる方が梅も喜ぶたなあ」と言ってくださる方や「子どもんじょうにコレ食べさせよ」とブルーベリーをくれるお隣さん。

農家ではない我が家は、いつも遠慮どころか両手を挙げ

頂戴しているが、私が生まれ育った町ではこういうことはなかった。

これはもう亡くなられた近所のおばあさんだが、杖をつき、キレイな花束を持って訪ねてきたことがあった。

「庭でできた花じゃき、仏様に供えちよくれ」と言う。祖母の生前、互いの家を行き来し、お喋りしていたからだろうか。

貰ってばかりでこんなことを言うのは大変厚かましいけれど、日々暮らす中で、手から手へと渡るモノは、近くの誰かを思う、気にかけるというように、見えないものとして、人と人を繋いでいるのかもしれない。

山の恵み、人との結びつき、九重にはこんな豊かな日常がまだ残っている。



いただいた梅

傍聴へどうぞ 次回は9月です



飯田こども園運動会



野上だ・夏だ・お祭りだ (野上祇園祭)



このえの ふるさと便り 第6便



今春スタートした南山田交流センター にぎわう落成記念イベント



町内唯一、住民自ら設立 東飯田防災士会総会で説明する役員

議会だよりについてご意見をお聞かせください。【議会事務局：76-3814】

編集後記

あの地震から1年が過ぎ、県道飯田高原中村線の道路改修が始まりました。家屋含めて被災した全てが復旧したわけではありませんが、少しずつ、少しずつ。TVで地震情報が流れるたびに、あの時のことが蘇る。この回復も少しずつ。

梅雨入り宣言はどこへやら。田植えは例年通りで、水不足の窮状は聞かない。献上米の御田植え式も好天のもと、将来を担う早乙女やジュニアリーダー達が純な想いを込めての田植え。秋には日本一のコメの収穫だ。持ち主は大変ですが、今上天皇への献上は、末代までの榮譽であり、誇りでありましょう。

議会だよりは皆さんとの接点の一つです。伝えたい事や紙面の工夫等、種々トライしたいと思います。今回のトピックスはお出かけ議会です。色んな所で皆さんの声を聴き、これからの町づくり役に役立ちます。

- ・ 広報委員長 佐藤 明郎
- ・ 副委員長 麻生 良典
- ・ 委員 佐藤 博美
- ・ 委員 土井眞一郎
- ・ 委員 増田 裕子
- ・ 委員 佐藤 太治